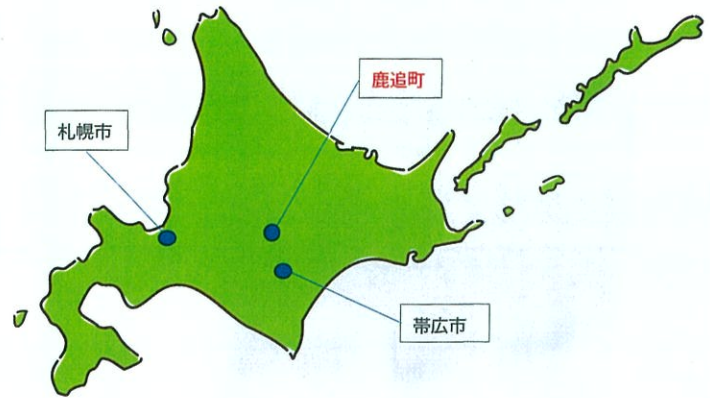


## 終わりになき図書館ジャーニー vol. 8

### 鹿追町図書館



鹿追(しかおい)町は十勝北西部に位置する人口5000人ほどの町。北海道で最も標高の高い然別(しかりべつ)湖という美しい湖があります。湖の水中に線路が入っていく写真を見かけたことありますか？冬の前に遊覧船を陸にあげるための引き上げ用の線路ですが、この線路の風景がとても幻想的でインスタなどでもよく見かけます。

札幌から特急に乗車して2時間ほどでJR新得(しんとく)駅に下車。鹿追町へは新得町や帯広市からバスで向かうことができます。

今回は新得で下車。まずはいつものようにランチ！しっかり新得そばを食べて、せっかくなので駅からそれほど歩かない新得町図書館へ。新得町図書館がまたとても「すごい」図書館なのですが、こちらはまた別の機会に書きます。

そういえば、JR新得駅には今年南富良野町へ行った時にも下車しました。

ありがたいことに、鹿追町図書館の方が新得町図書館に迎えにきてくれました。本当にありがたい。おかげさまで1時間以上早く到着することができました。バスだと30分ぐらい。クルマだと20分かからない。待ち時間とかを含むと30分どころか1時間以上かかるわけです。

初めて訪問する鹿追町図書館。せっかくだからということで、1時間ほど研修会のような形で「本を届ける出版社・書店・図書館 それぞれの関係性」というお題で、お話をさせていただく機会をいただきました。

道内各地の図書館事情、最近の出版流通事情、「子供の頃どんな本を読んでいたのか？」から始まり、図書館と出版社とのコラボなど、「今後の図書館は出版業界でどのようなことができるか？」など、時空を一気に駆け巡るようなトークをしました。新得町図書館の方も参加。皆さんすごく真面目に、真剣に聴講され、ひたすら感謝です。

鹿追町の地域資料コーナーはゆっくり閲覧するためにソファを設置。そのソファは住民からの寄贈とか。文庫や新書は出版社別に並んでいるなど、「書店」の棚を見ているようで、親しみを感じます。最近図書館では見かけなくなった『ハーレクインロマンス』シリーズの所蔵には懐かしく、驚きました。

役場や病院など住民が集まる場所にあるので、立地にはとても恵まれています。

図書館の2階には郷土資料室があり、ここも図書館が管理しています。見学したいというと、鍵を開けてくれます。最近各地の郷土資料館にハマっている私としては、時間があったら何時間でもいられる空間です。

あいにく築年数がかなり経過している図書館なのでエレベーターがなく、集会室も2階なので、高齢者が階段を上るのがしんどいという声が聞こえてくるそうです。道内各地エレベーターが設置できていない図書館や公民館はとて多いのが現状。新得町図書館も枝幸町町立図書館などもエレベーターがないので、2階にある本をスタッフが取りに行くという作業をしています。

返却ポストは夜になると、人を察知して自動でライトがつくという気遣いがあります。

鹿追町といえば、NHK 連続テレビ小説『なつぞら』に出演した吉沢亮演じる山田天陽は、画家の神田日勝をモチーフにしています。

日勝は戦火を逃れ、昭和 20 年8月、8歳の時に東京都練馬から一家で鹿追村(現、鹿追町)に疎開。昭和 45 年8月 25 日に 32 歳の若さで他界。

神田日勝記念美術館が町内にあります。あいにく今回は訪問できませんでしたが、次回は是非ゆっくり見学しようと思います。

2024 年6月訪問

加藤 重男